

■53年度サイクルOL全国大会■

個人塚本(奈良) * 団体茨城が優勝

10月14～15日の両日岩手県胆沢郡の衣川村を中心として、昭和53年度のサイクルOL全国大会が開催され、全国26都道府県より73名が参加し、熱戦をくりひろげた。

大会前日の14日は、昼頃から参加者が集合場所のサイクリングターミナルに到着し、受付を済ませた後16時より自転車の点検がおこなわれたが、ヘッド小物の締め方があまいものや、ネジなど小物のゆるみを注意された者が数名いた。夜は夕食の後開会式をおこない競技についての説明と注意があった。競技当日は晴天にめぐまれ、午前8時より3名づつ3分間隔でスタートした。

今回の成績は別表のとおりであるが、制限時間の6時間以内に入った者は、各クラス合わせて14名と少なかった。これはコース距離が比較的長かったこと、午後に向い風が吹いたことなどいくつかの悪条件が重なったためと思われる。

●男子 35才未満クラス (表彰は6位まで)

1位〔奈良〕 塚本 進也 5 : 16 : 35

2位〔茨城〕 坂下 剛司 5 : 19 : 38
3位〔〃〕 佐口 直史 5 : 21 : 57
4位〔福井〕 荒木 克則 5 : 24 : 33
5位〔東京〕 磯部 光晴 5 : 28 : 27
6位〔兵庫〕 阿曾 敏郎 5 : 30 : 34
7位〔岐阜〕 松原 賢治 5 : 31 : 48
8位〔兵庫〕 松本 英明 5 : 45 : 52
9位〔東京〕 下野 文男 5 : 49 : 20
10位〔兵庫〕 中島 郁生 5 : 51 : 45

●男子 35才以上

1位〔秋田〕 齊藤宇三郎 6 : 31 : 10
2位〔大阪〕 中井 憲治 6 : 35 : 27
3位〔長野〕 田畑 隆夫 6 : 41 : 32
4位〔奈良〕 福本 進 6 : 48 : 28

●男子団体

優勝〔茨城〕 佐口・坂下 10 : 41 : 35
2位〔東京〕 磯部・下野 11 : 17 : 47
3位〔岐阜〕 松原・須田 11 : 30 : 40
4位〔兵庫〕 松本・中島 11 : 37 : 37

●女子

優勝〔大阪〕 野中・大沢 6 : 00 : 19



さあスタートだと張り切る参加者



慎重にマスターマップを写す

CTC, AIT合同国際ラリーに参加して

神奈川県協会 山本克己

サイクリストの組織として最も古い歴史を持ち世界的に有名な英国のCTC (Cyclists' Touring Club)は、今年で100年目を迎えた。それを記念する行事が英国各地で行われ、創立記念日にあたる8月5日の前後一週間にわたり、100年祭週間 (CENTENARY WEEK)と名付けられた催しが、創設の地ヨークシャーのハロゲートを中心にして開催された。期間は8月3日から10日の8日間で、誕生記念のサイクリング (Centenary Year Birthday Rides 1978)がそのメイン行事である。

これに呼応して、ツーリングの国際的な組織であるAIT (Alliance Internationale de Tourisme)の1978年国際サイクリングラリーが、これに併せ開催された。

このラリーに神奈川県サイクリング協会の一員として数名の仲間と共に参加する機会を得た。ここに、見たまま、感じたままを中心にして参加報告記をまとめてみた。あくまで一個人の印象の域を出ていない私見にすぎないことをおことわりしておく。

一 運営全搬について 一

CTC本部が運営の責任を持っているのは勿論であるが、実務上はハロゲート支部が担当し、このための事務局の規模は5～6名である。毎年この時期にパースデーライドを開催しているが、今年はその内容を少々上げただけであるので、財政的にも、運営面でも特別な措置はしていないとのことであった。催しの性格からして5～6名の事務局員でまかなえないのは当然で、多くのCTC会員がボランティアで協力しているし、コース途中の各町村の婦人会組織や、ハロゲート市役所の全面的なバックアップを受けている。

(以上のことは、CTCのワナー事務局長に、直接きいた話を中心にとまとめた)

一 運営方法について 一

運営は、徹底して参加者の自主性にまかせたやり方で、これは欧米の人達の個人主義的な習慣を考えればあたりまえなのであろう。

例えば、大会本部はラリーへ参加申込みを受付けるだけで、宿泊の予約等には一切タッチしていない。キャンプサイトに関する案内や、ホテル予約のための現地観光案内所の所在などを情報として流す程度にとどめている。宿舎の確保は、参加者が自分の好み、経済的な負担能力に応じてすることになっている。あまり、おせっかいはやかないという配慮の方が優先しているのであろう。当然、事務局は誰がどこに泊っているかについては、全く関知していないし、参加者には参加者名簿さえ配られない。

市の中央の催し物会場に仮設された大テントに本部が設けられ、この中にレジストレーションセンター、インフォメーションセンターが大会期間中を通して開かれている。ここでレセプションが行われ、自転車置場としても使われた。また、案内板が用意されていて、事務局が出す各種の情報が掲示され、さらに参加者が知人と連絡を取ったりするための伝言板としても利用されていた。

大会登録料 (参加料)は50ペンス (日本円で約200円)で、これを払い込んだ人にはラ



生憎の雨にポンチョを着て走る

イドのコース解説書をくれる。この他、大会資料としてブローチャー（パンフレット）とバッジがあるが、それぞれ有料である。

なお、サコッシュ、ペナント、ワッペン、各種バッジ、ネクタイ、モーニングカップ、㊦用水筒、Tシャツ等々ありとあらゆる記念のスーベニールが販売されていた。

参加費が非常に低くおさえられているのは、家族づれで参加する人達に都合が良いし、大会資料にしても余分なものと思う人は買わなくても済むのである。もっと極端なことを云えば、登録料など払わなくても、適当な情報さえ手に入れば皆と一緒に走ることは可能だし、何ら問題はないのである。

参加は数日間参加しようと8日間通して楽しもうと全く自由で勿論一日だけでも良い。

昼食については、これも事前に申し込んだ人にだけ食券が配られ、指定された場所でとるようになっていく。コースによって、村の公民館や集会所での婦人会のおばさん達の手料理だったり、街の小さなレストランだったり、また朝の集合場所で食券と引替えにランチボックスをくれたりと様々であるので、全て料金が違う。また、あらかじめ希望したコースに応じて食券が配られているので、コースの変更は勝手だが、当然食券は無駄になる。

どちらにしても、あまり堅苦しく決められたことは好まれないようで、多くの人達は、食券など申込まずに自分の好みの場所で各自適当に調達しているようであった。

8月5日に開かれたハロゲート市主催のレ



ワグナー事務局長に記念品贈呈

セプションでさえ、あらかじめ申し込んでクーポンを持っていた人しか出席できないのである。こういったことが嫌いな人もいる訳だから、参加したい人だけが出れば良いという考え方なのであろうか。

なお、この8月5日がCTCの誕生日にあたり、夕刻のレセプションの他、昼間のクラシックサイクルのパレード、夜のフォークダンスの会、花火大会などお祭りらしい催しが種々組まれていた。

以上、運営の仕方は非常に合理主義に徹していたが、我々日本的な考え方からすると、気にさわることも多かった。しかし、参加者の自主性にゆだねるというやり方は、見習う必要があると思う。

一 実走について

コースは、ハロゲートをスタートして回遊してまた戻ってくるように毎日4つ程のコースが放射状に設定されている。距離は、ハードなもので150キロ程、短いもので50キロ程度である。それぞれ「岩と貯水池」、「森と谷」、「都会と平野」というように名付けられていて、自分の好みや脚力に応じて選んで走れるようになっている。

走行方法は、朝の集合場所（全日、全コースとも同一場所）とそれぞれのコースの一応のスタート時間が決められているだけで、あとは全くの自由走行である。何人集まっているとそんなことに関係なく、時間になったら走り始めるという風で、一見ラフな感じだ。

コースガイドは、地図、図表のたぐいは表示されておらず、全て文章で表現されている。

例えば「国道何号線を北へ向って約何マイル走り、〇〇町で何号線と交叉したら左折し云々……」といった内容になっている。英国の道路は全てルートが付いているので、交叉点などには必ず表示があり全く不安はなかった。

朝のスタート時に先頭に一人だけ、コース案内の人がつく（シュワードと呼ばれる）

コースに自信のない人は、この人についていけば良いのであるが、この人もあくまで自分のペースで走るので、少々くるしくてもついていかないと迷子になる。修理班や救護車などが一切ないことは勿論である。

コースそのものは、交通量の少ない道路を選んで設定されており、非常によく配慮されたコースであった。ハロゲートを中心とする西ヨークシャの一角が、静かにかつ地形の変化にも優れたサイクリングには絶好の場所であったことも特記しておく。

一 参加者について 一

ラリーへの全参加者数は850余名で、外国からの参加者は260名程、うちフランス、オランダが多く、続いて日本が41名で三番目である。若者男女あらゆる層が参加しており、高年齢者、婦人、それと家族連れが多いのが目立った。当然、タンデム、トレーラーでの参加もあたりまえであり、サイクリングのあり方自体に日本との差を感じた。

参考までにふれるが、日本からの参加者は今年から正式にJCAの代表を名乗ることになったが、このことは、JCAが日本の唯一の公的なサイクリング団体であるとの国際的な認知を受ける意味で、非常に重要なことであったと思う。

一 ま と め 一

前述した通り、今年のAITラリーは、あくまでCTCの100年記念ライドに相乗りしたにすぎない。このことは、今回の催しの名称、シンボルマーク、パンフレット等での扱い方など全般にわたって表れている。CTCの長い歴史からの自覚がそうさせたのかも知れない。

もっとも、AITのサイクリングラリーの持ち方は開催国の主催者に一切ゆだねられるのが通例であり、AIT本部そのものからは、運営面、財政面での援助は期待できない以上、これでよしとされているのであろう。

将来、AITラリーの日本開催が実現した

ような場合、かりにJCAなり地方協会がそれにかかわるようなことになったとしたら、このことは十分に考慮しておいて良いと思うし、金を出さない限り、口も出させないというCTCのこの態度をお手本として見習って良いと思う。

確かに、AITは旅行関係の国際的な大きな組織であることに違いはないが、ことサイクリングに関して言えば、それ程の影響力を持っているとは云い難い。

もし、JCAがサイクリングの国際的な交流を推進する必要があるなら、欧米各国のしつかりしたサイクリング組織 — 英国のCTC、フランスのFFCT、アメリカのLAW等々 — と直接の連繫をはかることの方が先決ではないか。その方がはるかに有効であるし、また重要であると思う。

以上、一つの提案をして、この報告記のまとめとしたい。

日華親善サイクリング

— 2月上旬 台湾の日月潭で —

JCAでは、昨年沖縄県で行なわれた九州ラリーに、中華民国(台湾)自転車協会のサイクリスト20名を招待、サイクリングを通じての親善交流を行なったが、このほど同協会より来年2月1日から3日まで開かれる日台親善サイクリング大会に日本のサイクリスト20名を招待したい旨の連絡があったので、下記要項によりこれに参加することになった。

Aコース(1月31日～2月4日(4泊5日))

参加料52,000円(大会参加に重点)

Bコース(1月31日～2月7日(7泊8日))

参加料72,000円(大会後ツアーを楽しむ)

集合 1月31日14:00～14:30

沖縄那覇空港

解散 2月4日(A)同7日(B)15時沖縄

・申込方法 所属協会を通じJCAへ

・申込締切 11月27日(厳守)

(参加要項、申込書は各協会にあります)